

現在物価高が続き、私たちの生活に大きな影響を与えています。昔は物価が安く良かったと思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回は 50 年前の 1973（昭和 48）年にさかのぼり、総務省統計局が公表している消費者物価指数から、山口市の物価の歴史を眺めてみましょう。

2020（令和 2）年の物価を 100 とした時、1973 年の物価は 39.8 で、約 50 年で物価は約 2.5 倍になりました。

ちょうど 50 年前は第 1 次オイルショックによる原油高が始まり、その 5 年後の指数は 69.3 と驚異的な上昇を示し、「狂乱物価」とも呼ばれました。

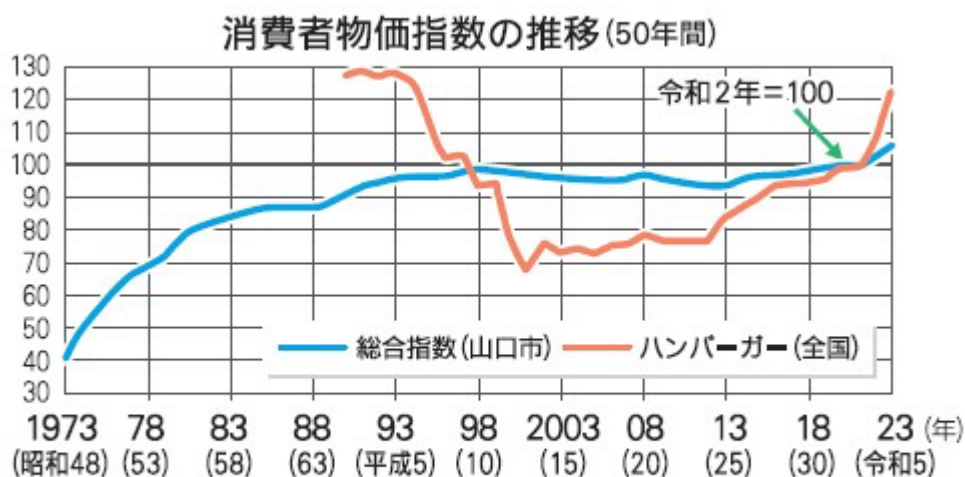
しかし、30 年前の 93（平成 5）年からしばらくの間、物価はほぼ横ばいの状態が続き、前年比では下落する年の方が多くなりました。いわゆるデフレの時代に突入したのです。

この象徴とも言えるのがハンバーガーの価格です。89 年に調査開始した全国の指数は、95 年から 2001 年にかけて大きく下落していますが、当時の価格をご記憶の方も多いのではないのでしょうか。

こうして長く続いたデフレも、13 年頃から脱却に向けた経済施策が講じられるようになり、緩やかな物価上昇に転じました。

そして、22 年 2 月のウクライナ侵攻開始以降、食料やエネルギー価格の高騰に見舞われ、現在に至ります。

このように時代を映す鏡ともいえる物価のデータは、ご報告に協力をいただいております店舗等の皆さまや調査員の皆さまのご尽力により収集されています。この場をお借りし、お礼を申し上げます。



出典:「消費者物価指数」(総務省統計局)